

高齢社会対策説明

宮本 悦子

内閣府高齢社会対策担当参事官

ただ今、ご紹介いただきました宮本でございます。私は、実は先週こちらの部署の方に着任したばかりでございます。大変不勉強な中でのご説明でございますので、ご説明が不十分かもしれませんが、どうぞご容赦くださいますようお願いいたします。

私は、旧労働省に入省いたしまして、先生がおっしゃったようなグローバル競争にさらされていない官僚として、20年以上過ごしてまいりました。直前は、厚生労働省の中の職業安定局という雇用を担当している部局におりました。そこで、地域雇用対策という雇用情勢が悪い地域、大都市圏ではなく、日本のいろいろな地方の雇用を応援する仕事をしてまいりました。いろいろな自治体へ出張してまいりまして、いろいろな方とお話する機会がございました。その地域対策の中では、やはりキーパーソンが非常に大事だということを2年間の経験を通じて実感してまいりました。高齢者が活躍するという取組の中でも、やはり大事なものは、キーパーソンではないかと思っています。ここにいらっしゃる方々は、そのキーパーソンではないかと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。



<高齢社会白書 全体構成>

今日は、「高齢化の現状と高齢社会対策」と題し、『高齢社会白書』についてご説明したいと思っております。『高齢社会白書』は、「高齢社会対策基本法」に基づいて、毎年国会に提出することとされている年次報告書でございます。平成8（1996）年から報告してまいりまして、今回は18回目になります。今年は6月14日に閣議決定しました。

この白書は、3部構成になっております。第1節は「高齢化の状況」、第2節は「高齢者の姿と取り巻く環境の現状と動向」で、第3節につきましては、毎年テーマを変えての特集を組んでおります。今年につきましては、団塊の世代の方々が平成24（2012）年から65歳に達し始めたことから、「団塊の世代の意識」について取り上げております。

高齢社会白書 全体構成

<第1章 高齢化の状況>

第1節 高齢化の状況

第2節 高齢者の姿と取り巻く環境の現状と動向

(家族と世帯、経済状況、健康・福祉、就業、社会参加活動、生活環境)

第3節 特集「団塊の世代の意識」

- ①団塊の世代の経済状況
- ②団塊の世代の就労
- ③団塊の世代の社会参加
- ④団塊の世代の健康・介護
- ⑤団塊の世代の住居

<第2章 高齢社会対策の実施の状況>

2

第1章 高齢化の状況

第1節 高齢化の状況

<高齢化の現状>

それではまず、第1節について、ご説明させていただきます。後ろに座っていらっしゃる方は、前の画面が見難いかもしれませんが、お手元にご覧いただけます「高齢社会白書」概要版にも同じものがございまして、お手元の資料をご覧になってください。

まずは、資料の2頁の「高齢化の現状」でございます。平成24(2012)年10月現在、総人口は1億2,752万人でございます。23年度に比べまして微減でございます。スライドの下の方に、丸で囲っておりますが、65歳以上の高齢化率は24.1%に上昇しております。75歳以上は11.9%に上昇しております。

- 平成24(2012)年10月現在、総人口は1億2,752万人で、対前年比で微減
- 65歳以上の高齢化率は24.1%に上昇、75歳以上は11.9%に上昇

【表1-1-1】 高齢化の現状

単位：万人（人口）、％（構成比）

		平成24年10月1日			平成23年10月1日		
		総数	男	女	総数	男	女
人口 (万人)	総人口	12,752	6,203 (性比) 94.7	6,549	12,780	6,218 (性比) 94.8	6,562
	高齢者人口 (65歳以上)	3,079	1,318 (性比) 74.8	1,762	2,975	1,268 (性比) 74.3	1,707
	65～74歳人口 (前期高齢者)	1,560	738 (性比) 89.7	823	1,504	709 (性比) 89.2	795
	75歳以上人口 (後期高齢者)	1,519	580 (性比) 61.8	939	1,471	559 (性比) 61.3	912
	生産年齢人口 (15～64歳)	8,018	4,038 (性比) 101.5	3,980	8,134	4,095 (性比) 101.4	4,039
	年少人口 (0～14歳)	1,655	847 (性比) 105.0	807	1,671	855 (性比) 104.9	815
	構成比		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	高齢者人口 (高齢化率)	24.1	21.2	26.9	23.3	20.4	26.0
	65～74歳人口	12.2	11.9	12.6	11.8	11.4	12.1
	75歳以上人口	11.9	9.4	14.3	11.5	9.0	13.9
	生産年齢人口	62.9	65.1	60.8	63.6	65.9	61.6
	年少人口	13.0	13.7	12.3	13.1	13.8	12.4

資料：総務省「人口推計」(各年10月1日現在)
 (注)「性比」は、女性人口100人に対する男性人口

3

(注) 本説明で用いられている資料の頁番号は、「平成 25 年版高齢社会白書 (概要版)」の頁番号を記載しており、スライドの右上に記載している頁番号と一致します。なお、「平成 25 年版高齢社会白書 (概要版)」は、内閣府ホームページより閲覧・印刷することができます。

[平成 25 年版 高齢社会白書 (概要版) (PDF 形式)]

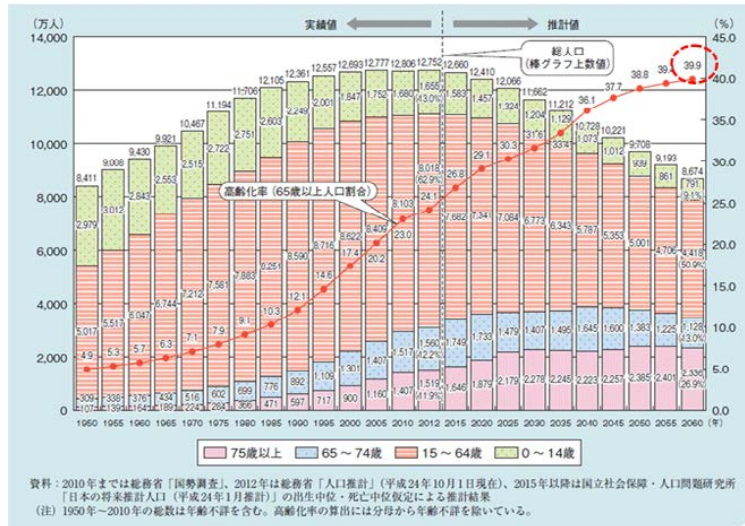
http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2013/gaiyou/25pdf_indexg.html

< 高齢化の推移と将来推計 >

続きまして、資料の 3 頁でございます。これは、「高齢化の推移と将来推計」を示したグラフでございます。折れ線グラフが高齢化率、つまり 65 歳以上の人口の割合でございます。急激に上昇しまして、平成 72 (2060) 年には 39.9%になると予想されております。ちょっと図が見難いかもしれませんが、平成 72 (2060) 年には、2.5 人に 1 人が 65 歳以上、4 人に 1 人が 75 歳以上の社会になると予想されております。

○ 平成72(2060)年には2.5人に1人が65歳以上、4人に1人が75歳以上の社会へ

【図1-1-2】 高齢化の推移と将来推計

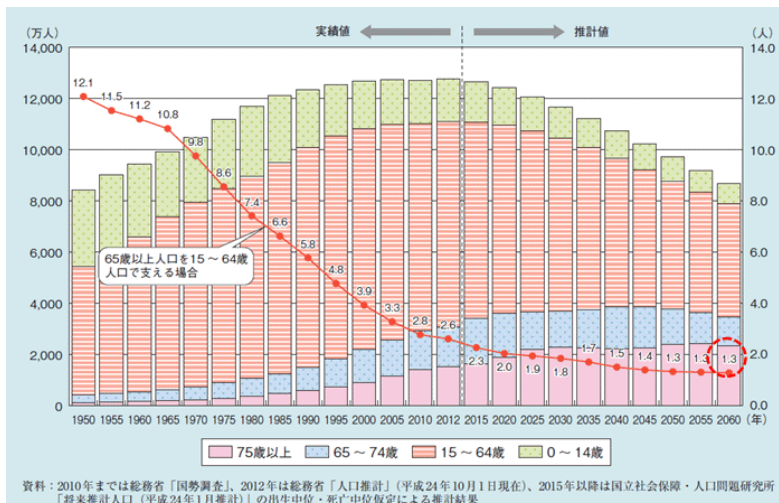


続きまして、資料の4頁になります。高齢世代人口の比率を示したものでございます。

平成24(2012)年には、高齢者1人に対しまして、15～64歳の現役世代が2.6人でありました。これが平成72(2060)年には、右下に点線で囲ってありますが、高齢者1人に対しまして、現役世代が1.3人になると予想されております。現役世代1.3人で1人の高齢者を支える社会が到来してくるということでございます。

○ 平成24(2012)年は、高齢者1人に対して現役世代(15～64歳)が2.6人
 ○ 平成72(2060)年には、高齢者1人に対して現役世代が1.3人となる見込み

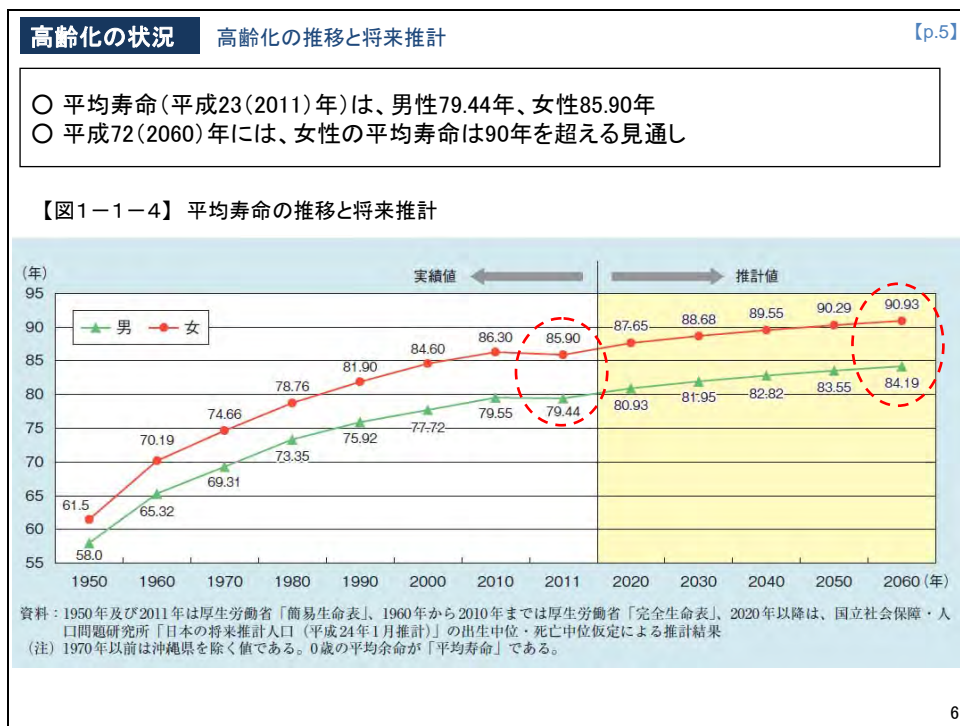
【図1-1-3】 高齢世代人口の比率



続きまして、資料の5頁は「平均寿命の推移と将来推計」でございます。先ほど、樋口先生より「人生

90年」というお話もございましたが、多分これが根拠になっているのではないかと考えています。

平均寿命は、平成 23 (2011) 年の段階では、男性が 79.44 年でございます。上の折れ線グラフ (マーカーが丸印のもの) が女性の平均寿命でございます、85.90 年でございます。これが、平成 72 (2060) 年になりますと、男性が 84.19 年、女性が 90.93 年となり、女性の平均寿命は 90 年を超える見通しとなっております。



第2節 高齢者の姿と取り巻く環境の現状と動向

第2節は、「高齢者の姿と取り巻く環境の現状と動向」ということで、家族と世帯、経済状況、健康・福祉、就業、社会参加活動、生活環境について分析しております。

高齢社会白書 全体構成

<第1章 高齢化の状況>

第1節 高齢化の状況

第2節 高齢者の姿と取り巻く環境の現状と動向
 (家族と世帯、経済状況、健康・福祉、就業、社会参加活動、生活環境)

第3節 特集「団塊の世代の意識」

- ① 団塊の世代の経済状況
- ② 団塊の世代の就労
- ③ 団塊の世代の社会参加
- ④ 団塊の世代の健康・介護
- ⑤ 団塊の世代の住居

<第2章 高齢社会対策の実施の状況>

10